

# 令和4年度第6回 うべ未来モニターアンケート集計結果

## 1 アンケートのテーマ

### 『スポーツレクリエーション活動について』

- (1) 実施期間 令和4年10月11日（火）～10月23日（日）まで
- (2) 担当部署 スポーツ振興課

## 2 モニター数・アンケート回答者数

- (1) メール・郵送文書到達モニター数 796 人
- (2) 回答者数（回答率） 360 人（45.2 %）

## 3 回答者の属性

※ 端数処理のため比率の合計が100%にならない場合があります。

### 【年代】

項目	回答者数	比率	グラフ
10歳代	3 人	0.8 %	
20歳代	2 人	0.6 %	
30歳代	33 人	9.2 %	
40歳代	59 人	16.4 %	
50歳代	60 人	16.7 %	
60歳代	82 人	22.8 %	
70歳代	111 人	30.8 %	
80歳代	10 人	2.8 %	

360 人

ご協力、ありがとうございました。



## 【居住校区】

項目	回答者数	比率	グラフ
東岐波	19人	5.3%	
西岐波	28人	7.8%	
恩田	33人	9.2%	
岬	15人	4.2%	
見初	8人	2.2%	
上宇部	35人	9.7%	
神原	15人	4.2%	
琴芝	21人	5.8%	
新川	16人	4.4%	
鵜の島	10人	2.8%	
藤山	16人	4.4%	
原	10人	2.8%	
厚東	4人	1.1%	
二俣瀬	5人	1.4%	
小野	9人	2.5%	
小羽山	14人	3.9%	
常盤	18人	5.0%	
川上	14人	3.9%	
厚南	15人	4.2%	
西宇部	19人	5.3%	
黒石	11人	3.1%	
船木	7人	1.9%	
万倉	6人	1.7%	
吉部	5人	1.4%	
在学・在勤	7人	1.9%	

N=360

## 【性別】

項目	回答者数	比率	グラフ
女性	174人	48.3%	
男性	186人	51.7%	

N=360

## 4 回答集計

- ※ 比率は、各設問の回答対象数（N）に対する割合を示しています。
- ※ 単数回答であっても、端数処理のため比率の合計が100%にならない場合があります。

## 『スポーツレクリエーション活動について』

担当部署 スポーツ振興課

### アンケートの趣旨

本市では、「第2次宇部市スポーツ推進計画」に基づき、年齢や性別、障がいの有無等にかかわらず、すべての市民が生涯にわたってスポーツに親しむことができる社会の実現を目指し、様々なスポーツ施策に取り組んでいます。今後の更なるスポーツ施策推進の参考とするため、皆様のスポーツ・レクリエーション活動の実態やスポーツ等の振興についてお尋ねします。

**【問1】あなたは身体を動かすことは好きですか。**

項目	回答者数	比率	グラフ
1. 好き	154 人	42.8 %	
2. どちらかといえば好き	131 人	36.4 %	
3. どちらかといえば嫌い	71 人	19.7 %	
4. 嫌い	4 人	1.1 %	

N=360

**【問2】あなたは具体的にどのように身体を動かしていますか。（複数回答可）**

項目	回答者数	比率	グラフ
1. 歩く（ウォーキング・散歩・通勤など）	239 人	31.1 %	
2. 走る（ジョギング・マラソンなど）	25 人	3.3 %	
3. 登山・自然散策	52 人	6.8 %	
4. 家庭菜園・庭いじり	121 人	15.8 %	
5. 自転車	68 人	8.9 %	
6. 体操（ラジオ体操・ストレッチなど）	87 人	11.3 %	
7. 筋力トレーニング	48 人	6.3 %	
8. その他（種目を記入してください。）	94 人	12.2 %	
9. 特になし	34 人	4.4 %	
8. その他（種目を記入してください。）	サッカー、フットサル、ソフトバレーボール、バレーボール、卓球、硬式テニス、ソフトテニス、バドミントン、ラグビー、軟式野球、インディアカ、ボウリング、ゴルフ、グランドゴルフ、スキー、スケート、モトクロス、ボート競技（ローイング）、フラダンス、ダンス、フォークダンス、太極拳、少林寺拳法、水泳、スポーツ、けん玉、家政夫、家事、DIY、地域のボランティア活動、草刈り（農地・市道等）、農作業、ヨガ、ピラティス、エアロビ、シャザサイズ、有酸素運動、ストレッチ、室内バイク、筋トレ、健康体操、昇降運動、ステップ、バランスボール、ジム、フィットネスサークル、家の中で簡単な器具です		

N=768

**【問3】あなたは日頃どのくらいの頻度で運動していますか。**

項目	回答者数	比率	グラフ
1. 週3回以上	175 人	48.6 %	
2. 週1～2回	104 人	28.9 %	
3. 月2～3回	25 人	6.9 %	
4. 年に数回程度	28 人	7.8 %	
5. 運動は全くしていない →問6へ	28 人	7.8 %	

N=360

**【問4】問3で「1. 週3回以上」「2. 週1～2回」「3. 月2～3回」「4. 年に数回程度」と答えた方にお聞きします。**

問3で回答した運動のうち最も頻度が高いものについて、お答えください。  
運動するときは、1回あたりどのくらい時間をかけますか。

項目	回答者数	比率	グラフ
1. 10分未満	19 人	5.7 %	
2. 15分程度	41 人	12.3 %	
3. 30分程度	95 人	28.6 %	
4. 1時間程度	98 人	29.5 %	
5. 1時間以上	79 人	23.8 %	

N=332

【問5】問3で「1. 週3回以上」「2. 週1~2回」「3. 月2~3回」「4. 年に数回程度」と答えた方にお聞きします。

あなたが運動やスポーツをする理由は何ですか。(複数回答可)

項目	回答者数	比率	グラフ
1. 健康や体力の維持・増進のため	245人	25.7%	
2. 運動不足を解消するため	179人	18.8%	
3. 気分転換、気晴らしのため	158人	16.6%	
4. 肥満解消や美容のため	104人	10.9%	
5. 運動することが楽しい、おもしろい、好きだから	86人	9.0%	
6. 友人・仲間との交流のため	80人	8.4%	
7. 家族とのふれあいのため	31人	3.3%	
8. 試合や大会への参加のため	21人	2.2%	
9. 自己記録や能力向上のため	15人	1.6%	
10. 精神修養や鍛錬のため	11人	1.2%	
11. その他	14人	1.5%	
12. 特に理由はない	9人	0.9%	

N=953

【問6】問3で「5. 運動は全くしていない」と答えた方にお聞きします。

あなたが運動やスポーツをしない主な理由は何ですか。(複数回答可)

項目	回答者数	比率	グラフ
1. 仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから	16人	29.1%	
2. 運動やスポーツは好きではないから、興味がないから	11人	20.0%	
3. スポーツが苦手だから	5人	9.1%	
4. 費用がかかる(金銭的な余裕がない)から	4人	7.3%	
5. 体力に自信がないから	5人	9.1%	
6. 身近に施設や場所がないから	1人	1.8%	
7. 仲間がないから	3人	5.5%	
8. 参加したいイベントがないから			
9. ケガや病気のため	4人	7.3%	
10. 予約が取れないなど、施設や場所が利用しにくいから			
11. 指導者がいないから	1人	1.8%	
12. その他	2人	3.6%	
13. 特にない	3人	5.5%	

N=55

【問7】あなたが会場で観戦したことのあるプロスポーツを教えてください。(複数回答可)

項目	回答者数	比率	グラフ
1. レノファ山口 (J2リーグ)	63人	16.3%	
2. 山口ペイトリオッツ (B3リーグ)	23人	6.0%	
3. ミネルバ宇部 (女子フットサルリーグ)	4人	1.0%	
4. なごとブルーエンジェルス (女子7人制ラグビー)	1人	0.3%	
5. ACT SAIKYO (女子バドミントン)	2人	0.5%	
6. YMGUTS (女子ハンドボール)			
7. その他	82人	21.2%	
8. 観戦したことはない →問9へ	211人	54.7%	

N=386

【問8】問7で「1. レノファ山口 (J2リーグ)」「2. 山口ペイトリオッツ (B3リーグ)」「3. ミネルバ宇部 (女子フットサルリーグ)」「4. ながとブルーエンジェルス (女子7人制ラグビー)」「5. ACT SAIKYO (女子バドミントン)」「6. YMGUTS (女子ハンドボール)」「7. その他」と答えた方にお聞きします。会場で観戦した動機やきっかけを教えてください。

項目	回答者数	比率	グラフ
1. そのチームが好きだから	30 人	20.1 %	
2. 地元のチームだから	31 人	20.8 %	
3. そのチームが地域に貢献しているから	3 人	2.0 %	
4. 会場でのイベントが楽しそうだから	7 人	4.7 %	
5. 友人、家族に誘われたから	34 人	22.8 %	
6. 対戦相手が魅力的だったから	7 人	4.7 %	
7. チケットをもらったから	14 人	9.4 %	
8. その他	21 人	14.1 %	
9. 特にない	2 人	1.3 %	

N=149

【問9】スポーツという言葉から何を連想しますか。  
あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答可)

項目	回答者数	比率	グラフ
1. 一定のルールに従い、勝敗や記録の優劣などを競い合う運動 (野球、サッカーなど)	274 人	31.3 %	
2. 必ずしも勝敗や記録の優劣などを競い合わない運動 (ダンス、体操、ジョギングなど)	134 人	15.3 %	
3. 体を動かすレジャーやレクリエーション (ハイキングなど)	143 人	16.3 %	
4. 特別な準備、設備なしでも実施可能な軽運動 (ウォーキング、ストレッチなど)	123 人	14.1 %	
5. 日常生活での身体活動量を増やすこと (エレベーターの代わりに階段を利用するなど)	50 人	5.7 %	
6. 家の中で体を動かしてみる (家事、育児など)	23 人	2.6 %	
7. 試合を観戦すること	76 人	8.7 %	
8. スポーツ大会のスタッフとして携わること (ボランティア、関係者など)	25 人	2.9 %	
9. スポーツをテーマにしたテレビゲームを楽しむこと	12 人	1.4 %	
10. その他	3 人	0.3 %	
11. 分からない	12 人	1.4 %	

N=875

**【問10】宇部市のスポーツ振興について、今後どのような取組みに力を入れる必要があると思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。**

項目	回答者数	比率	グラフ
1. スポーツ指導者・スタッフ・ボランティアの人材育成	87人	9.2%	
2. スポーツ人口の拡大につながるスポーツ教室・イベントの拡充	122人	12.9%	
3. 公共スポーツ施設の整備・充実	164人	17.3%	
4. 学校体育施設の開放による利用拡大	52人	5.5%	
5. スポーツ・レクリエーション活動に関する情報提供	63人	6.7%	
6. 健康・体力相談体制の整備	26人	2.7%	
7. 地域のスポーツクラブやサークルの育成・支援	67人	7.1%	
8. 子どものスポーツ機会の充実	69人	7.3%	
9. スポーツに関わってこなかった成人層などへの環境作り	48人	5.1%	
10. 高齢者のスポーツ・レクリエーション活動の促進	79人	8.4%	
11. 障害者のスポーツ・レクリエーション活動の促進	13人	1.4%	
12. 全国大会等の誘致によるスポーツ交流	23人	2.4%	
13. スポーツ団体などの活動の支援	17人	1.8%	
14. プロスポーツ観戦など見るスポーツの機会の拡大	63人	6.7%	
15. トップアスリートとの交流や講演などの機会の拡大	30人	3.2%	
16. その他 ( )	9人	1.0%	
17. 分からない	14人	1.5%	
<b>16. その他 ( )</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で手軽にできるスポーツの充実</li> <li>・歩道の整備、自然の共有の充実</li> <li>・民間企業によるスポーツクラブ等の育成・支援</li> <li>・市民の多くは健康のためのスポーツ意識が高まっていると思う。多種のプロスポーツ観戦の企画が望まれる。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大で、あらゆるイベントが中止・縮小・簡略化となり、イベントをきっかけとしてスポーツに関わる人がさらに少なくなっている。草の根として地域を巻き込んだ積極的なイベント開催が必要。</li> <li>・子どもたちが常盤湖の一部でボートができる環境にする。小野湖では子どもたちのアクセスに問題。小野湖と常盤湖のダブル使い。宇部市にはボートを盛んにする湖があるのに。</li> <li>・サッカー場、アリーナ、アーバンスポーツ施設と複合施設の建設。</li> </ul>			

N=946

## 担当部署による総括

スポーツレクリエーション活動については、約80%の人が身体を動かすことが好きで、実際に週1回以上運動している人は約77.5%いますが、運動を全くしていない人については、時間的制約や情報不足などの問題があげられ、さらに興味の不足の割合が多数存在していることがわかりました。

一方、週1回以上スポーツを行う成人の割合では、新型コロナウイルス感染症拡大防止による影響が続いていますが、昨年の約67.5%から上昇が見られました。

また、プロスポーツについては、関心や興味がない人が多く存在していることが顕在化しました。

なお、スポーツという言葉から連想については、一定のルールに従い、勝敗や記録の優劣などを競い合う運動と思う人が多いことから、プロスポーツの興味には「強さ＝好き」が必要なが伺えました。

今後も、新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意し、運動・観戦の阻害となっている要因を分析して、解消策を検討します。

特に恩田運動公園については、将来の全市的スポーツ拠点となり多世代の市民にとってより身近に利用できる場所となること、またそれにより多くの人々が健康な心と身体を育て、運動公園を中心に若者でにぎわう場を創出するため、整備の推進を引き続き取り組んでいくこととします。